

第5回野菜需給・価格情報委員会における秋冬キャベツなどの野菜の需給・価格見通しについての意見の概要

1 日時

平成21年10月29日(木) 14:00~16:00

2 場所

農畜産業振興機構 北館6階 大会議室

3 概要

【夏秋野菜の需給・価格の状況】

(1) (前回の委員会での) 需給と価格の見通しと実績の違いとその要因

①夏秋キャベツ

ア 見通しでは、低温の影響を受けたものの生育は平年並みで、特に多かった前年並みの出荷が見込まれ、価格は前年並みか、ややこれを上回るとされていた。

イ 実績は、入荷量は前年を上回り、価格は全体としては前年を大きく上回った。

ウ 見通しと実績の違いの要因は、主産地の群馬などにおける生育が7月の全国的な天候不順の中にあっても比較的順調であったことなどによるものである。また、価格については、昨年が著しく低い価格で推移していたためである。

②夏秋レタス

ア 見通しでは、生育状況は平年並となっており、播種期・生育初期に雨にたたられた前年を上回る入荷が見込まれ、価格的には平年ないし、平年を下回ると見通した。

イ 実績は、入荷量は全体として前年を上回り、価格は全体としては全年を下回った。

ウ 見通しと実績の違いの要因は、長野県における自主出荷調整や主産地における曇雨天で一時的に入荷量が抑さえられていたものの、9月以降は降雨で定植の遅れていた産地の入荷量が回復したことにより、価格が著しく低落したためである。

【秋冬野菜の需給・価格見通し】

《冬キャベツ》

(1) 生産者側の報告

(全般) 主産県は千葉、神奈川、愛知。昨年はゲリラ豪雨の影響で作柄悪く、販売状況が良かったこともあり作付は前年を上回る。年内の出荷は千葉県産、神奈川県産のウェイトが高く、前年を上回る見込み。年明け以降、愛知県産のウェイトが高まるので台風18号の影響が心配。

(産地農協)

- ・ 作付面積は、おおむね横ばいからやや増。
- ・ 生育状況は、台風の影響が少ない産地では概ね順調だが、被害の大きい産地では、定植間もない苗が強風により揉まれたり、塩害による小玉化などが認められる。
- ・ 出荷期間は10月から3月に冬系、12月から春系の出荷となる。
- ・ 出荷量は、年内出荷分は平年並、年明け出荷分については台風18号の影響で減少する見込み。

(2) 委員の意見

- ・ 冬系キャベツ、特に年明けの契約分について心配している。
- ・ 蒔き直しのあった愛知県の動向で状況が変わる。
- ・ 年明けに需要が集中するので台風18号の影響を心配している。

(3) 委員の意見を踏まえた上での冬キャベツの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・ 作付面積は、前年を上回る。
- ・ 生育・供給状況は、台風18号の影響で小玉傾向であるが、年内は順調に出荷の見込み。
- ・ 消費に関しては、横ばいとなっていることから、価格は、前年を下回ることが見込まれる。

《秋冬だいこん》

(1) 生産者側の報告

(全般) 主産県は千葉、神奈川、徳島。作付面積は近年の価格低迷により全体的に微減傾向。千葉県はコスト上昇から露地の作型が増えたこと、また、台風対策が十分にできなかったことから年明け出荷分の減少が心配。愛知県は寒冷紗をかけ、台風をクリアできたが作付けやや少なめで出荷量もやや少なめの見込み。

(産地農協)

- ・ 作付面積は、トンネル物が微減傾向で露地物が微増傾向で、全体としては前年及び平年並み。

- ・生育状況は、千葉県産の年明け出荷分は台風18号の影響により減少が心配。他産地は順調。
- ・出荷期間は、露地物は10月中旬から1月末、トンネル物は2月中旬から3月の出荷となる。
- ・出荷量は、1月から2月にかけて少なめの見込み。

(2) 委員の意見

- ・台風の被害の影響をみて販売していきたい。
- ・消費面でカット売りが増えて販売厳しい。
- ・キャベツ、だいこんといった重量野菜の価格が伸びないとバイヤーとしては厳しい。
- ・関西市場は徳島県のウェイトが高いなかで、作付減少から入荷減と見込んでいる。
- ・この後の天候にもよるが、価格は横ばいからやや高めを見込んでいる。
- ・作付減少とあるが、長期予報で暖冬ということを考慮すると消費不振から出荷が減っても価格が上がらない。
- ・加工販売をみても消費伸びず、低調と見込む。

(3) 委員の意見を踏まえた上での冬キャベツの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・作付面積は、前年をやや下回る。
- ・生育状況は、台風18号の影響があるものの、おおむね順調。
- ・出荷は、前年並か、前年をやや下回ると見込まれ、特に年明けはその傾向が強まると見られる。
- ・一方、消費は伸びが見込めないことから、価格は、横ばいで推移することが見込まれる。

《秋冬はくさい》

(1) 生産者側の報告

(全般) 主産県は茨城、愛知、兵庫。作付面積は前年並み。出荷量は年内は少なかった前年を上回り平年並みの出荷が見込まれるが、年明けについては茨城県、愛知県のウェイトが高まるので台風の影響による減少が心配。兵庫県産は順調。

(産地農協)

- ・作付が増えた地区と高齢化により作付が減った地区との二極化。
- ・中生は豊作で前年を上回る出荷量を見込む。
- ・台風の影響により外葉に痛みが見られ、今後の天候次第では小玉になる見込み。

(2) 委員の意見

- ・愛知県産が回復しているのかに関心ある。名古屋市場や関西市場に流れるのではないかと懸念している。
- ・カット売りをメインにして数量を伸ばす。価格については年内は厳しい。
- ・茨城県産が大玉傾向と聞いている。
- ・愛知県の影響が大きく、年内は価格が厳しいと見ている。12月～1月は半減との話もある。
- ・年明けに愛知県の数量が少ないと関東産が流れてくるのではないかと予測。
- ・作付面積は、全国的な安値の影響でやや減少と思われ、今後はやや価格は持ち直すと見られる。
- ・はくさいは鍋商材でもあり、冬を代表する野菜なので暖冬と厳冬では消費が大きく異なる為、今後の気温に大きく左右される。
- ・年内は厳しい相場。
- ・気温が鍋需要に与える影響が大きいため、暖冬傾向による消費低迷も注意。
- ・天候不順、暖冬で前進化しており、2月～3月に値上がる傾向。(年明け荒れやすい)
- ・契約産地の中には年明けの値上がりを狙って作付けをスライドしている生産者もある。
- ・特に需要の多いキムチに関しては中国産や韓国産に対するアレルギーが無くなり輸入が増えているのが気になる。

(3) 委員の意見を踏まえた上での冬キャベツの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・作付面積は、前年並。
- ・台風18号の影響はあるものの、出荷量は、年内は前年を上回る見込み。年明けは、平年より少ない可能性がある。
- ・このため、価格は年内は前年をやや下回る可能性が高いが、年明けには変動が生じる可能性がある。

《たまねぎ》

(1) 生産者側の報告

(全般) 主産県は北海道。作付面積は前年並み。北海道産は天候不順の影響で、不作気味。出荷は前年・平年を大きく下回る見込み。

(産地農協)

- ・ほぼ収穫は終了しているが、北海道産は生育期である7月に雨が多かった影響で腐敗が多く数量は減る見込み。
- ・北海道以外の産地も今春の日照不足から冷蔵物が少ない。

(2) 委員の意見

- ・ 過去2番目に入荷が少ない。このまま春までいくのではないか。
- ・ 昨年を上回る価格ではないか、年内は堅調。
- ・ 北海道の天候不順による収量減に加えて、兵庫県産は例年8~9月期に価格が下がるが本年は好調に推移したため前進出荷傾向となり冷蔵物が例年に比べて半減。
- ・ 今後も数量減の単価高で推移するものと思われる。

(3) 委員の意見を踏まえた上での冬キャベツの需給・価格の見通しの野菜需給協議会への報告内容は、

- ・ 作付面積は、前年並。
- ・ 生育状況は、天候不順の影響により、平年及び前年より著しく悪く（小玉化など）、出荷量は、平年及び前年を大きく下回る見通し。
- ・ このため、価格は前年を上回ることが見込まれる。

《それ以外の品目》

(冬レタス) 主産県は静岡、兵庫、香川、茨城。静岡県で若干、台風の影響あり。生育良好で順調な出荷を見込む。

(冬にんじん) 主産県は千葉、埼玉。台風の被害もなく生育順調で、全体として不作気味だった前縁を上回るものと見込む。